

## 1 対象の概要と事業導入のねらい

農産物加工直売「まごころの里」(岩国市美和町生見)は、地域の女性たちの活躍の場や地域住民の小さなお店としての役割を担っており、平成9年に起業しました。現在は9名で、農産加工事業と地域の農産物や農産加工品を販売する委託販売事業を行っています。

起業以来、多くの地域会員の参加により順調に運営してきましたが、会員の高齢化による農産物の出荷の減少や、市内に複数の直売所が開設されたことで来客数も減少してきました。また会員の高齢化により農産加工事業の製造体制も組みにくくなってきており、近年は経営状況が下降傾向となっていました。

そこで、岩国農林水産事務所では、まごころの里の運営体制を見直し、無理なく取り組める活動や今後も地域の中の小さな活動拠点として運営できるように支援することとしました。

## 2 具体的な取組内容

### (1) 経営目標や活動の検討

まずは、25周年の記念イベントの場を活用して、地元住民からまごころの里に求めることを聞き取りました。また会員からは、日頃の活動に対する改善案を聞き取りました。

次に、これまでの事業内容を振り返り、強みや弱みを明確にしました。収集した声をあわせて、客層や提供できる商品について話し合い、今後の活動の方向性と目標を検討しました。その結果、「これからも、元気で張り合いのある生活を送るため、地域社会との関わりを持った活動をしたい」、「地元のお客さんを中心に、喜んでもらえるお店にして今後も事業を継続していきたい」との方向性と具体的な販売目標の金額を設定して進めることになりました。この目標を実現するために、四季折々の商品づくりや、予約販売の充実、委託販売を拡大し、売上を上げられるように取り組んでいくこととしました。



【農産物加工直売  
まごころの里】

### (2) 委託販売先や地元とのつながりを深める活動

まごころの里を維持していくために試算をしたところ、あと100万円の売上向上が必要でした。そこで、市内で委託販売可能な直売所との意見交換を行い、消費者の動向や需要のある商品の状況を聞きました。その結果、寿司類の出荷数量の増加や、かき餅などの新たな商品づくりにもチャレンジし、売上向上につながられるようになりました。また、年末の正月餅を製造する忙しい時期を中心に地域で手伝いできる人を募ったり、人気商品のこんにゃくの原材料の生産・提供を呼び掛けたりしました。

## 3 取組の成果

地域住民や会員の声を反映した目標を決めたことで、活動の方向性が明確になり、各自がアイデアを出し合いながら経営改善に取り組めるようになりました。

会員の活動意欲も上がり、地域住民に喜んでもらえる店となるように積極的に考え、検討できるようになりました。